



# ゆくて遥かに

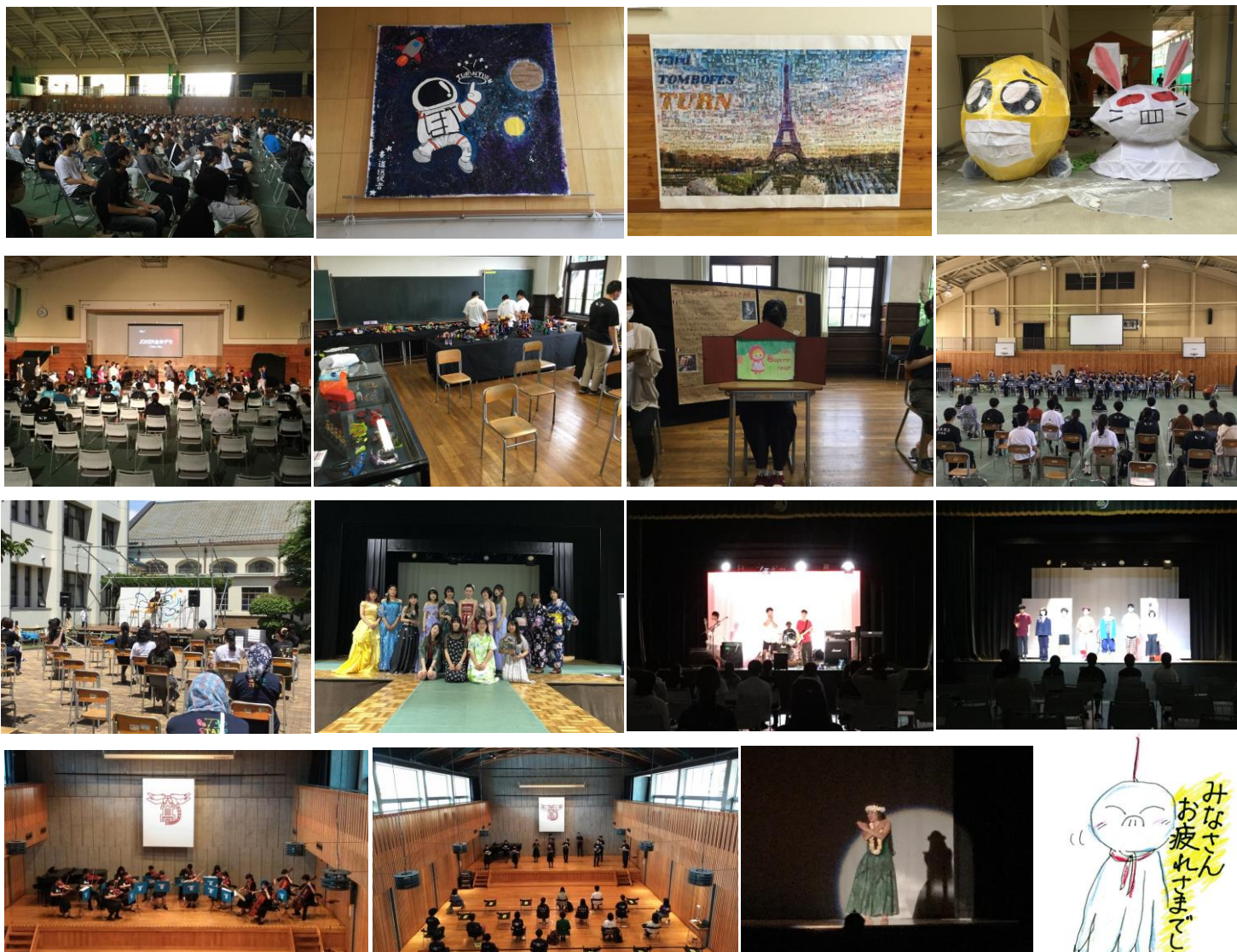
令和2年7月20日(月)

第117号

長野県松本深志高等学校長

## 第73回とんぼ祭「TURN」完遂(7月10日~13日)

今年のとんぼ祭は第73回、テーマは「TURN」、小林委員長は新聞の取材に「『逆境をはね返す』意味と考えた」と述べています。その言葉どおり、コロナ禍にも負けずに、リアルで四日間立派にやり切りました。生徒自身で作った独自のガイドラインに従って感染予防対策に万全を期し、入場制限や密にならない席の間隔、換気や除菌、様々な工夫をしながら、生徒たちは本当によく頑張ったと思います。人と人の物理的距離は保ちながら、心と心はみんなで寄り添って……。大体育館と小体育館の二会場を中継をつないで行われた開祭式では、岡部会長が「このような景色を見られると思っていなくて、言葉が出ない」と震える声で挨拶。私からも「逆境の中で、ここまで準備を進めてくれたすべての生徒に、心から敬意を表したい。皆さんの熱意のおかげで、深志の求めてやまない智の聖火を、今年も燃やし続けることができる。学芸協議会の発表の場を用意し、とんぼ祭の伝統を絶やさずに、繋げることができる」と感謝の気持ちを伝えました。ステージ発表や展示発表、案内や掲示、ポスター、灯ろう、全校企画、様々なイベント、とんぼ祭のすべてが例年と遜色のない出来栄で、深志生の熱意と知恵と工夫と底力を存分に見せてもらった四日間でした。



みなさん  
お疲れさまでした



## 鯉幟雄姿見せる（7月10日～）

深志の5月の風物詩、応援団管理委員会手作りの鯉幟が、とんぼ祭初日に合わせて約2カ月遅れでお目見えしました。鯉が滝を上ると竜



目入れは6日の放課後に実施

になる、という中国の言い伝えがありますが、この滝を上る鯉の姿こそ、いくつもの困難を乗り越えていく深志の生徒のあるべき姿、という思いが込められている伝統の鯉幟です。今年の名前は「義明4号」、まずは疫病退散、深志生の健康と高校生活の充実と活躍、そして希望の進路実現と、多くの願いを一手に引き受けて、蜻蛉ヶ丘の青空を雄大に力強く泳いでほしいものです。



## その他の話題をいくつか

★ とんぼ祭ガイドラインは、とんぼ祭実行委員会が専門家の助言を受けながら制作したものです。

その目的について「県の指針だけでは具体的な対策をとることが困難である状況を踏まえ、各種活動の可否を決める明確な基準を設ける」と説明しています。手指の消毒や距離、換気、行動経路の把握等を細かく規定し、消毒も講習会を開いて定期的に実施されました。

★ 15日の午前中、前号でお知らせしました3Dプリンターの贈呈式が化学教室で行われました。関一精機様、八十二銀行様、ありがとうございました。早速、フル稼働で活用させてもらっています。



## 今週の予定（通常授業、四連休）

日	曜日	行事等	その他(主に校長動向)
20	月	学年会	松本市高校再編住民説明会
21	火	総合的探究の時間（1年）	
22	水		
23	木	海の日	野球1回戦
24	金	スポーツの日	
25	土		陸上代替大会会場長
26	日		校長会主体性実行委員会
27	月	学年会	